

Hello! FUJISEI

No.283

たばこの税負担割合は6割を超えます。しかし、喫煙が健康に良くないと分かっているにもかかわらず、愛煙家にとって禁煙のハードルは高いようです。しかし、喫煙は、さまざまながんの原因の中で、予防可能な最大の原因です。

厚生労働省の「平成26年 国民健康・栄養調査結果の概要」によると、現在習慣的に喫煙している人の割合は19.6%でした。性別にみると、男性32.2%、女性8.5%であり、男女ともに10年間で減少傾向にあります。年代別にみると、男性は30歳代・40歳代、女性は30歳代が高くなっています。

現在習慣的に喫煙している人のうち、たばこをやめたいと思う人の割合は男性29.2%、女性38.2%となっています。

たばこの煙には、ニコチンや一酸化炭素、タールなど200種類以上の有害物質、64種類の発がん物質が含まれており、健康に害を及ぼすことがわかっています。

たばこを長期間吸い続けると、肺がんやCOPD（慢性閉塞性肺疾患）、心疾患をはじめ、

止められない喫煙

まだまだ高い喫煙率 男性32.2%、女性8.5%

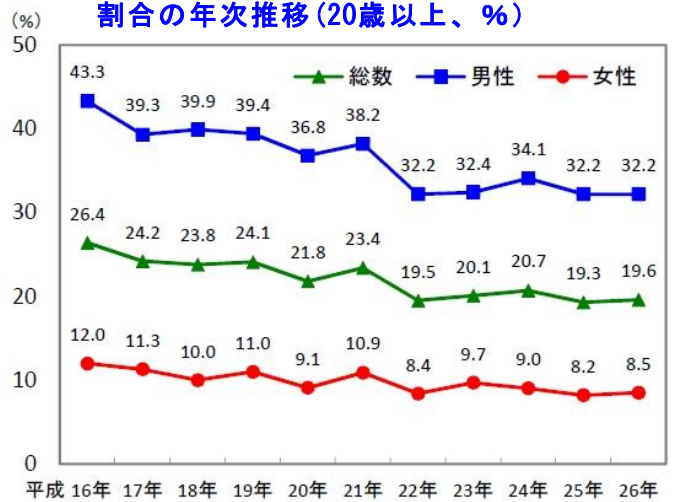
様々な病気のリスクを高めます。非喫煙者の死亡の危険度を1とした場合、肺がんは男性が4.45倍、女性が2.34倍という厚生労働省の調査報告もあります。

また、依存症という問題もあります。そのため、禁煙しようとするとき、イライラしたり、怒りっぽくなるなど、禁断症状が現れます。

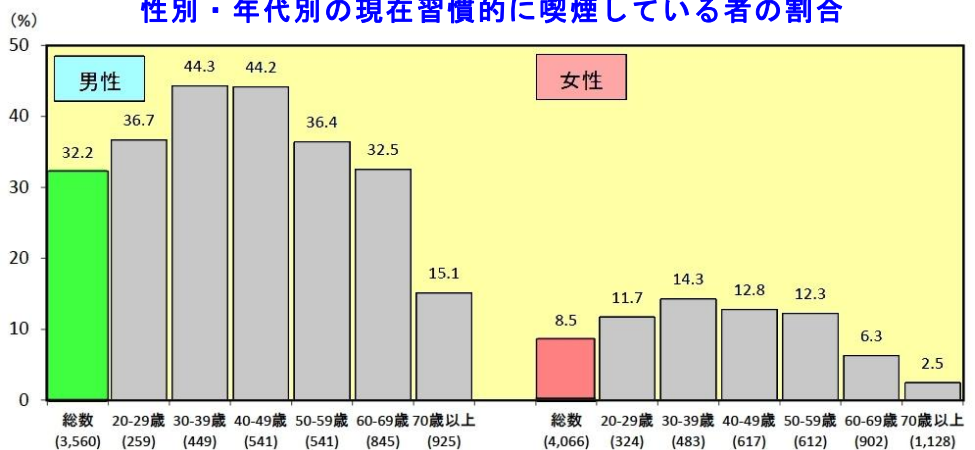
受動喫煙の害も深刻です。喫煙者が直接吸い込む主流煙よりも、たば

この先端から立ちのぼる副流煙のたばこを吸わない人の健康にも影響を与えます。

※「現在習慣的に喫煙している者」の割合の年次推移(20歳以上、%)



性別・年代別の現在習慣的に喫煙している者の割合



※「現在習慣的に喫煙している者」とは、たばこを「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」と回答した者。

なお、平成24年までは、これまでたばこを習慣的に吸っていたことがある者*のうち、「この1か月間に毎日又はときどきたばこを吸っている」と回答した者。

*平成16~22年は、合計100本以上又は6か月以上たばこを吸っている（吸っていた）者。

厚生労働省「平成26年 国民健康・栄養調査結果の概要」より

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル